

○ 原子力事業所安全協力協定加盟事業所総合防災訓練見学会

平成31年1月15日（火）、日本原子力研究開発機構 大洗研究所において、平成30年度総合訓練が行われ、協定加盟5事業所より8名の方が見学に参加した。

大洗町、銚田市にて震度6弱の大規模地震が発生し、外部商用電源を喪失した。常陽では原子炉が自動停止し、2台の非常用発電機が自動起動したが、原災法第10条事象及び第15条事象に進展した。また、常陽において地震時巡視点検及び電源喪失対応を行っていた職員1名が転倒して右足を負傷したとの想定のもと訓練が行われた。

地震発生直後に構内放送が行われ、速やかに現地対策本部が設置された。また、統合原子力防災ネットワークに接続されたテレビ会議システムを立ち上げ、ERC対応ブース内の2名の副所長を中心に、機構対策本部、ERC及び官邸事務局と書画装置を用いた画像を共有しながら、適切かつ迅速な情報提供が行われた。

常陽の現場指揮所及び現地対策本部では、警戒事象、原災法第10条事象及び第15条事象の進展毎に、本部内の情報共有とともに迅速かつ適確な判断がなされ、収束に向けた対応が行われた。

負傷者対応においても、除染室での身体除染、応急手当、救急車での搬送が速やかに行われた。

協定加盟事業所より参加した見学者は、訓練概要の事前説明を受けた後、現地対策本部、現場指揮所、負傷者の救急車での搬送及び模擬プレス発表を見学した。最後に行われた見学者との意見交換では、所長、副所長及び各人の役割分担が明確で、書画装置を用いた画像を共有しながらの情報提供も効果的であったため、小規模の事業所でも行えることは参考にしたい等の意見が述べられた。



現地対策本部



ERC 対応ブース



「常陽」現場指揮所



救急車による負傷者搬送



模擬プレス発表